

2020年12月4日

## オリンパス、呼吸器インターベンションの医療機器メーカー 米 Veran Medical Technologies 社の買収契約を締結

～製品ポートフォリオの拡充により肺がんの早期診断・治療に貢献～

オリンパス株式会社（取締役 代表執行役 社長兼 CEO：竹内康雄）は、呼吸器インターベンション分野\*1 に注力する米国の Veran Medical Technologies 社（ベラン・メディカル・テクノロジーズ、本社：米国セントルイス、以下 VMT 社）の株式 100%を取得する契約を締結しました。買収金額は 340 百万 US ドルを想定しており、米国の地域統括会社である Olympus Corporation of the Americas（OCA）を通じて実施する予定です。

VMT 社の持つ、気管支の末梢部分へのスムーズな到達をサポートする電磁ナビゲーションシステムをはじめとした先進的な医療技術と、当社の持つ気管支鏡とのシナジーによって、世界的に増加傾向にある肺がんをはじめとした呼吸器疾患の早期診断・低侵襲治療に貢献してまいります。

\*1 気管支鏡を使った治療・診断

オリンパスは、2019 年 11 月に発表した経営戦略のひとつとして、「治療機器事業への注力と拡大」を掲げ、その事業展開を加速させるため、治療機器分野におけるグローバル事業統括機能を米国に配置しています。また、当社は同事業において特に消化器科、泌尿器科、呼吸器科の 3 つを注力分野としており、今回の VMT 社の買収はまさにこの戦略に基づいた決定です。

肺がんは、がんの中でも罹患率・死亡率ともに世界 1 位\*2 の疾患です。昨今では低線量 CT 検査\*3 の普及・拡大により、肺野部（気管支末梢領域）の病変が発見されることが増えてきています。これに伴い、病変部の組織や細胞を採取し確定診断を行うため、気管支鏡検査が行われる機会が増えてくると予想されます。

\*2 WHO がん統計データ：<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/cancer>

\*3 診断が可能な最低限の線量で行う低侵襲な CT 検査（通常の CT 検査の約 1/10 の被ばく線量）

VMT 社が持つ電磁ナビゲーションシステムは、細く枝分かれした気管支末梢部への気管支鏡や処置具の挿入を支援するシステムであり当社が持つ気管支鏡とのシナジーが期待できます。また、VMT 社の経験豊富なセールススタッフを迎え入れることは、呼吸器事業における販売機能の強化につながり、これによって事業の成長を促進していきたいと考えています。

OCA の社長兼 CEO で、オリンパスの COO（最高執行責任者）であるナチョ・アビア（Nacho Abia）は、「VMT 社の買収は、オリンパスの呼吸器事業における製品ポートフォリオを強化するだけでなく、双方の強みを補完し合うものであり、今後、このシナジーによって期待される呼吸器事業のさらなる成長が、治療機器事業の拡大につながるものと確信しています。特に、VMT 社の電磁ナビゲーションシステムは、今後の製品ポートフォリオ拡充において、非常に魅力的な製品だと考えています。」と語っています。

VMT 社の CEO である Jason Pesterfield 氏は、「100 年の歴史を持ち、世界的にも品質に定評があるオリンパスの一員となることを嬉しく思っています。オリンパスは、グローバル・メドテック・カンパニーとなるための明確な戦略を持っており、我々の強みや専門性がその実現のための一部となることを誇りに思います。」

と語っています。

#### <Veran Medical Technologies 社概要>

- 会社名：Veran Medical Technologies, Inc.
- 本社所在：米国ミズーリ州 セントルイス
- 設立年月日：2003年8月7日
- CEO：Jason Pesterfield
- 資本金：6百万円\*4
- 売上：3,022百万円\*4 (2019年12月期)
- 営業損益：△1,215百万円\*4 (2019年12月期)
- 事業内容：呼吸器科関連医療機器の製造・販売
- 従業員数：約130人

\*4 1米ドル=103.89円 (2020年11月末の為替レート) で換算。

本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。

#### オリンパスの治療機器事業について

オリンパスの治療機器事業は、医療分野における革新的な技術と製造技術で医療従事者のみなさまとともに歩んでまいりました。診断そして低侵襲治療において、より良い臨床結果を生み、医療経済にベネフィットをもたらし、世界の人々の健康や QOL 向上に貢献してまいります。ポリープ切除用のスネア開発に始まり、外科用デバイスの開発や処置具のラインアップの拡充などを経て、様々な製品が疾患の予防、診断、治療に役立っています。詳しくは、[www.olympus.co.jp/](http://www.olympus.co.jp/) をご覧ください。